

僻地地域医療の問題点, 課題, 将来展望

— 僻地地域医療で活かす総合診療医の必要性 —

なが み はる ひこ
長 見 晴 彦

キーワード：地域外科医療, 総合診療医, 完結型二次医療

要 旨

島根県での地域医療は未だ十分に機能していない。その主たる原因は地域における医師数の絶対的不足と医師偏在である。特に外科医師不足は深刻な問題であり、当県の医師数100に対する外科医師数は9.15人と全国41位である。今回、自験外科診療所の患者動態を分析すると同時にアンケート調査により地域医療への患者関心度を分析した。地域在住の患者は二次医療圏内での完結型医療を希望し地域医療と専門医療の両方とも必要と考えていた。この地域住民の要望に応じるためには一次、二次医療機関において総合外科+総合内科+小児科+ α 型の総合診療の知識、技能、態度を身につけ地域密着型医療と専門的医療の中間位にある総合診療医の育成が必要であると考えられた。今後、地域医療においては総合診療医の需要は益々増加し、この総合診療医育成こそ地域医療再生、魅力ある地域医療機関の醸成に不可欠と考える。

はじめに

近年の医療展開は専門化、細分化され各分野に多数の専門医師を必要としている。一方で医療費亡国論に端を発した国の医師数抑制策、また新臨床研修制度導入により全国各地において地域医療は崩壊してきたのも事実である。私見ではあるが、地域医療においては家庭医療の実践は勿論のこと専門医療も随所に要求され総合診断能力のある総合診療医の活躍が要求される時代となり、この総合診療医師数の増加が島根県の地域医療活性化、再生への一歩と考える。筆者も島根県雲南市にて

1997年無床診療所を開設以降地域医療に従事してきたが、2004年の卒後研修制度導入以来地域医療崩壊の姿を現実を目にしてきた。一方で島根県西部での外科系医師不足は大きな問題であるが、雲南二次医療圏においても同様に深刻である。当院は外科・内科を主体とする僻地診療所である。今回は先述の問題点についてこれまでの来院患者の分析をもとに僻地地域医療で求められる総合診療医育成の必要性について考察した。

当院の医療環境, 競合施設, 診療圏範囲

当院は雲南市木次町に位置し、1997年7月に開院した。主たる標榜科目は外科、消化器内科・肛門科である。圏域内に雲南市立病院、平成記念病院さらに山間部には奥出雲町立病院、飯南病院、

Haruhiko NAGAMI

長見クリニック

連絡先：〒699-1311 雲南市木次町里方633-1